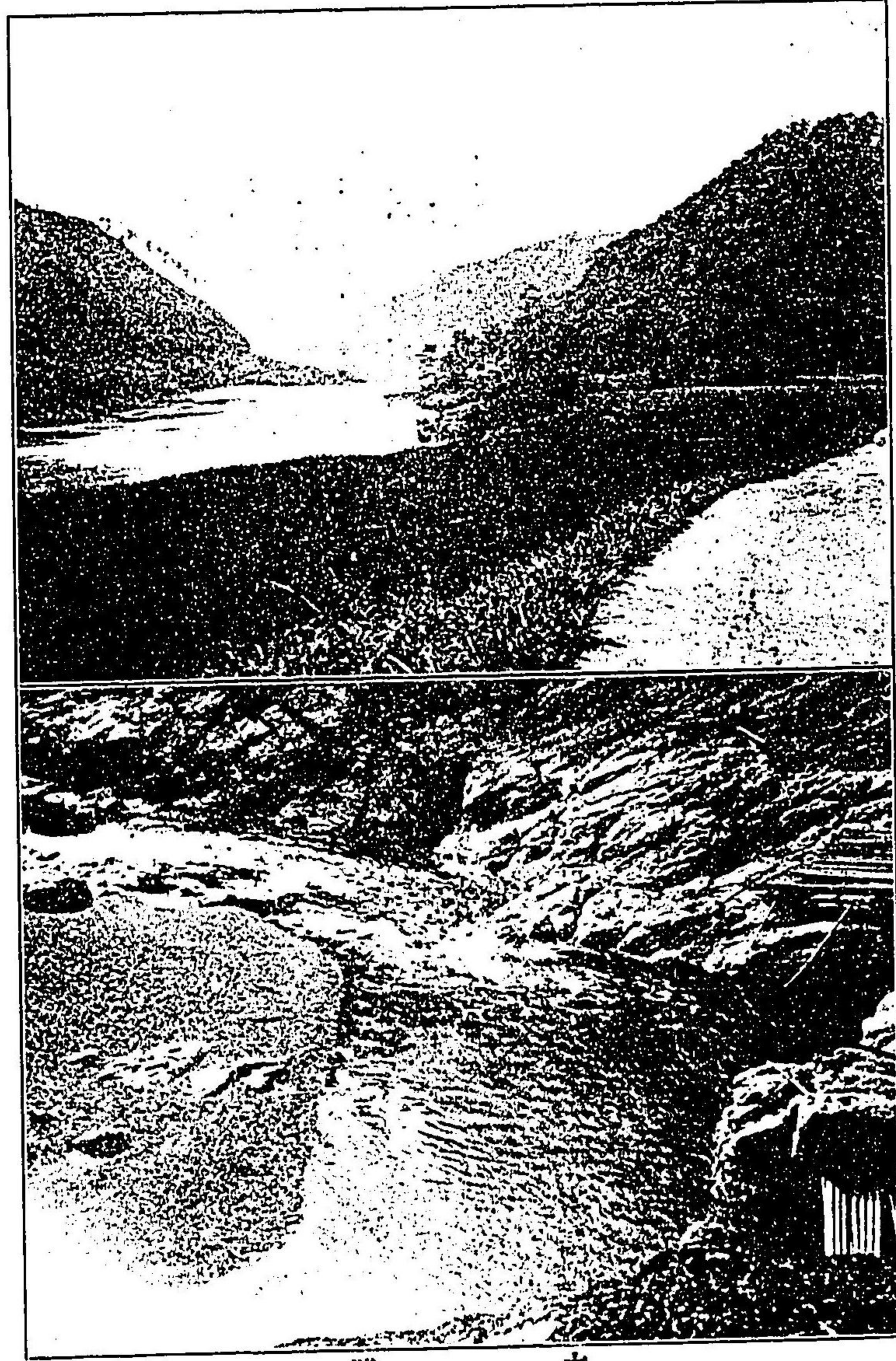


妹 脊 山



大 淵

正行、正時、和田新發意、舍弟新兵衛、同紀六左衛門子息二人、野田四郎子息二人、楠將監西河子息關地其圓以下、今度の軍に一足も引かず、一處にて討死せんと約束したりける兵百四十三人、先皇の御廟に参りて、今度の軍難義ならば、討死仕るべき暇申して如意輪堂の壁板に各名字を過去帳に書き連ねて、その奥に「かへらしとかねておもへは梓弓なき敷にいろ名をさそよむると、一首の歌を書き留め云云

(太平記)

萬人買醉撥芳叢	感悔誰能與我同	頼
恨殺殘紅飛向北	延元陵上落花風	杏坪
古陵松和吼天巖	山寺尋春春寂寥	
眉雪老僧時歇帚	落花深處說南朝	藤井竹外
山禽叫斷夜寥寥	無限春風恨未消	
露臥延元陵下月	滿身花影夢南朝	河野鉄兜
吉野山に登りけるに秋の日既に斜になれ	は名ある所をのこしてまつ後醍醐天皇の	
みさゝきを拜む		
御廟としを經てしのは何を忍ぶ艸		芭 蕉

賀茂の大人と共に我はらからなどかいつらねて
 大和の國へいきける時に吉野の大瀬を見てよめる 春海
 神ろぎの遠き御代より語りつきいひつゝ言をゆかしみと思ひたちぬる草枕
 たびの長路の山河のいづくはあれど名々ばしき吉野の山の雲霧を八重かき
 わけて大瀬の川瀬を見れば上つ瀬はゆづ岩むらにあちたぎち水沫くだけて
 大雪のちりかふがごと下つ瀬は八十のくまわに青浪の渦浪まきて天鼓のた
 とよふなせり神がらかしかぞあやしき國がらかかくぞさやけきかくしつゝ
 八百萬世にありかよひ常に見るともあきたらぬやも
 ろちたぎつゆづ岩むらに波ふりて山もとどろに響あひにけり

吉野大瀬

ちる花をおつめて瀬のみかさ哉

壑 太

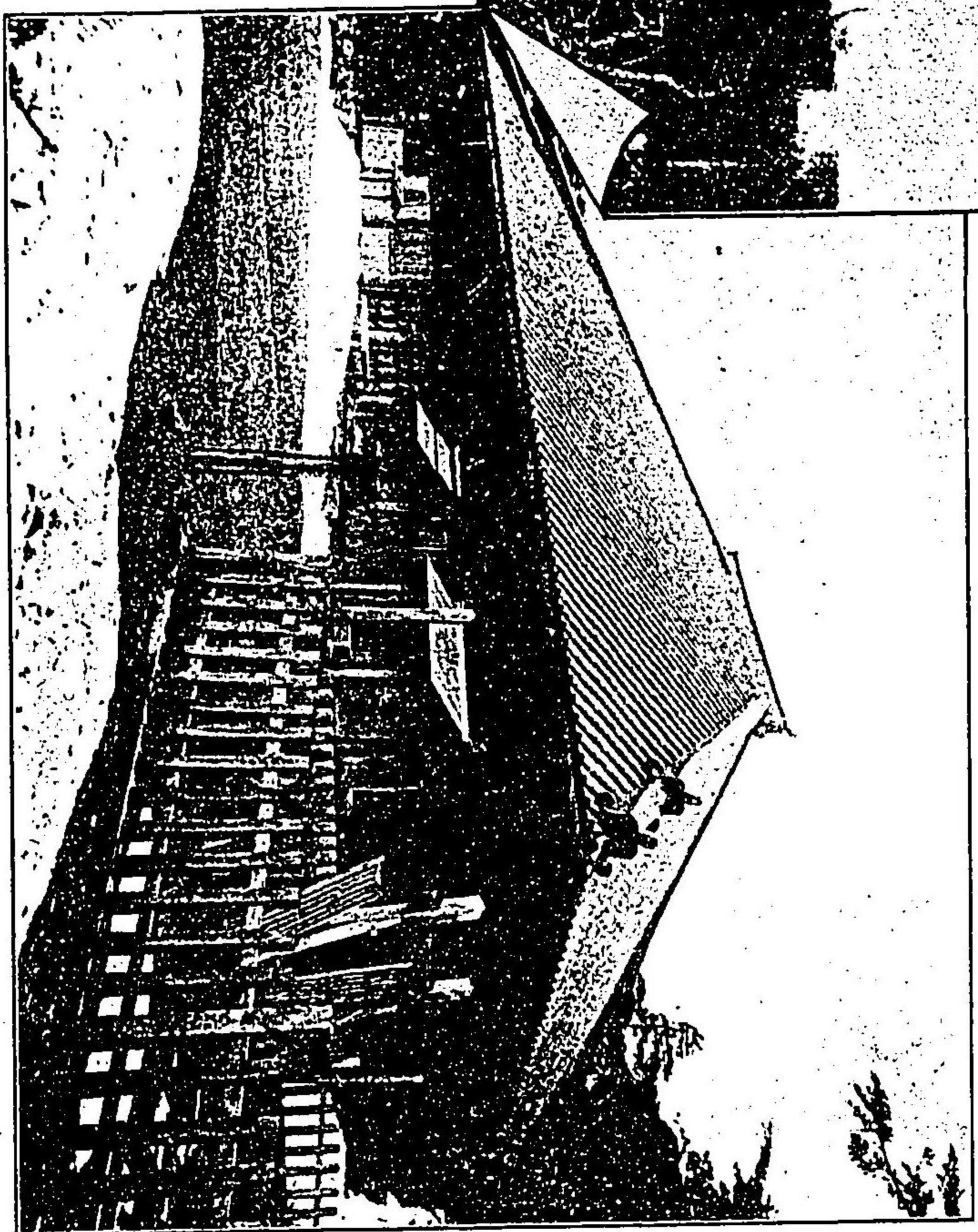
西 河

ほろくそ山吹ちるか瀬の音

芭 蕉

春くれば妹背の山の隔てなくみゆる霞の中立もよし 鎌倉近江

大瀬ヶ原山



大 陸 山 本 堂

土屋 鳳洲

有木梯架險崖、拾而登、大巖當面、曰
鐘懸、衆暄若、曰是可登乎、岩上偶有
人、呼曰、不易登、亦可登、乃足據巖
角、手執巖頭、懸行魚貫而進、

大峰にて

僧正 行 尊

もろともにあはれとおもへ山櫻花より外に知る人もなし

峯入は宮もわらぢの旅路かな 宗 因

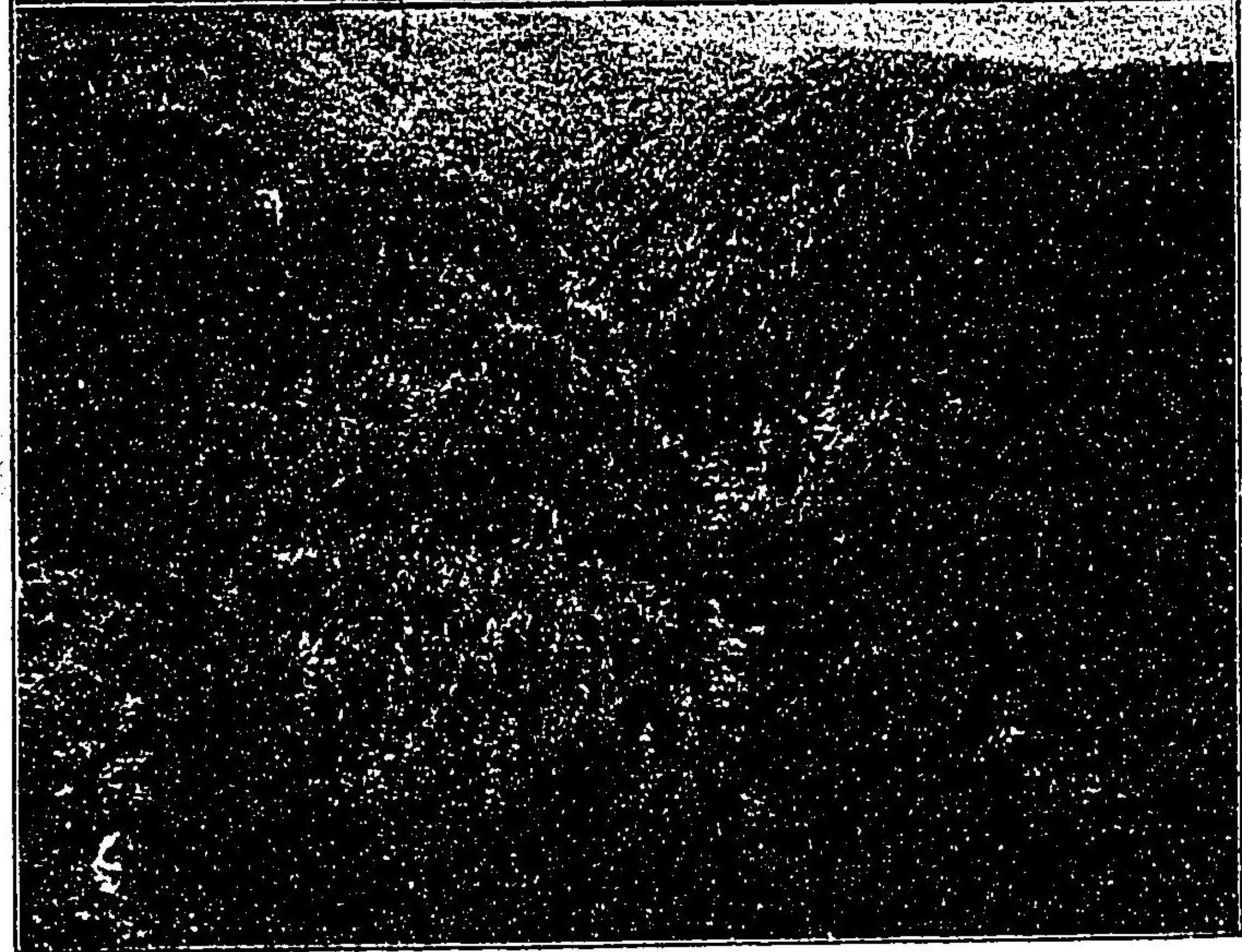
花も奥ありとや芳野になかく吟し入りて

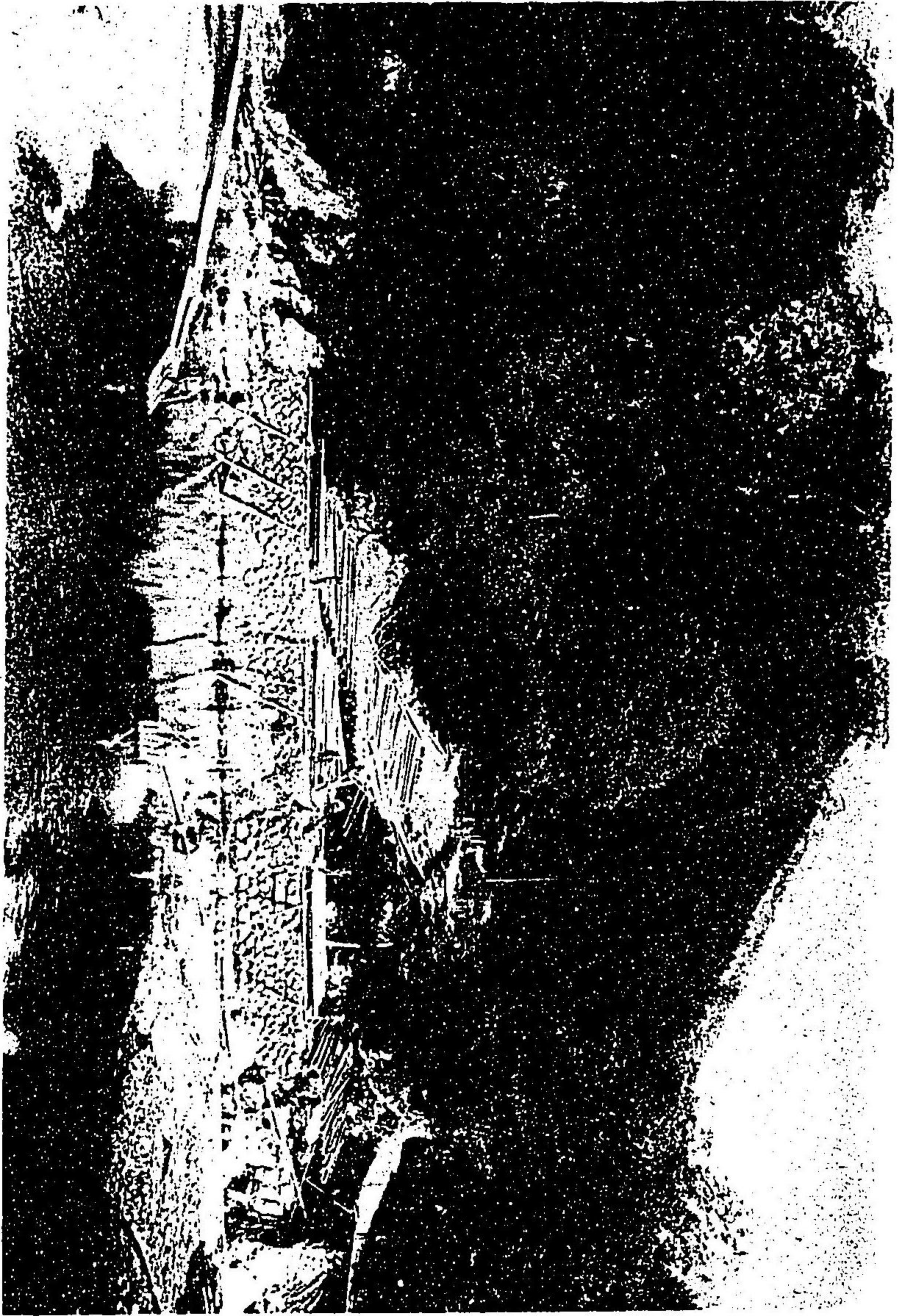
大峯やよしの、おくな花の果 曾 良

川上村神ノ谷修羅出シ



高見村杉谷十年林相



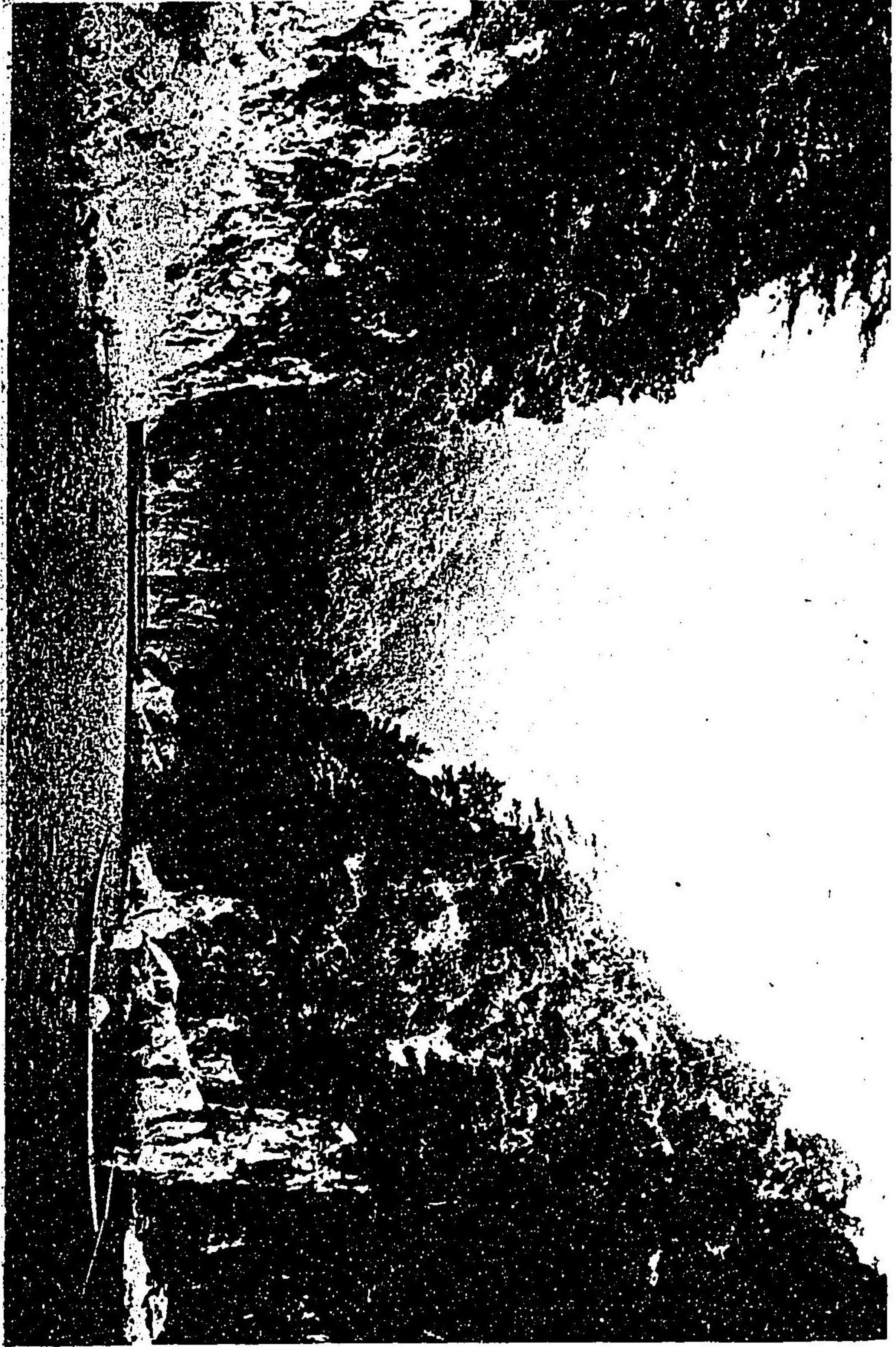


小川村三尾川合流筏作樂

左に吉野郡に於ける杉檜栽培創始の年度を掲げて参考に供す

川上郷	三百九十八年前	(文龜年間)
黒瀨郷	三百年前	(慶安年間)
西奥郷	二百七十年前	(寛永年間)
北山郷	二百六十年前	(寛永年間)
十津川郷	二百卅七年前	(寛文年間)
池田郷	二百一十年前	(元祿年間)
國標郷	二百十年前	(元祿年間)
小川郷	二百八年前	(元祿年間)
中庄郷	百九十五年前	(寶永年間)
龍門郷	百廿七年前	(安永年間)

(吉野林業全書)



町入る

筏士よとはんよしのゝ水上も

連歌師 宗賢

いかばかりちる花のあらしき

筏の乗り方は通常の筏にあつては人夫二人を要し大木の筏なれば三人若しくは五人を要す此乗人は先にあるものを鼻コギと云ひ次にあるものを脇乗といひ後にあるものを後流しといふ (吉野林業全書)

一棹廻崖則溪口、峻崖數尋、屹立作門、門之内、左右石壁、直立千尺、頂戴椎松雜木、如無一撮土者、水則深綠色、似巨巖作底、而深數十尋、不可測也、澁々不流、舟子按楫緩進、崖壁幾曲、觀隨曲改、崖岩盡奇、其最奇者、右崖而跌石、蛭岩、脾石、雞冠石、大黑石、左崖而屏風巖、船岩、冷門、釜洞、皆可觀、釜洞口僅容身、其中嵌空受五六十人實奇觀也、
藤澤南岳

湯川滑齋
孤篷半捲坐玻璃
秋映水平舟可停
汀邊亂石虎斑古
洞口濕雲龍氣腥
山有鹿麋須結侶
地無桃李亦成蹊
瑩然玉井潔於玉
一笑土人呼作泥

五條附近

五條は吉野川の沿岸にありて下街道及紀伊伊勢交通の要衝に當り市況繁華にして鮎晒布を産物とす。元代官所ありし所にして文久三年天誅黨の亂を起すや先兵を此處に集め十津川の方に赴きて幕兵の來討を拒みき。其西端吉野川に臨みて五條遊樂園二見驛より六町あり眺鬪頗佳に夏期の香魚獵は最妙なるべし、もと二見の城趾にして圖南の翼を振はんとせし松倉重政は實に大阪陣の戦功によりこの處より島原へ封を移されしなり。西方に名所眞土山まつちやまあり之を紀伊との境となす、高野、和歌山に至らんもこれより西すべきなり。南すれば靈安寺りやうあんじに御靈神社ごりやうじんじ五條驛ごりやうえきより廿一町あり寶龜三年たからかめ巫蠱まじに座して廢せられたる井上皇后及他戸太子たけのくにの靈を祭り御山みやまに皇后宇智陵みちのくにのみや御靈神社ごりやうじんじあり。

賀名生皇居趾

賀名生村和田、
五條の南方二里

後醍醐帝の賀名生に幸し給ふや和田村の郷土堀信増先已の宅に奉じ後行在を屋後の山の上に營み皇居となし奉り忠勤を抽んでたり楠正行吉野を出で、四條畷に戦死し高師

五條附近、賀名生皇居趾

(六十七)

直勝に乗じて吉野を攻むるや後村上天皇また此處に移り給ひ次の帝後龜山天皇亦こゝに居給ひき。其居館今に存して舊觀を改めず遺愛の南天等あり來りて此處に遊ぶもの誰か懐古の涙に咽ばざるを得んや。子孫今猶堀氏を稱し家に勅賜の旗幟家の旗等を藏す。此處亦北畠親房公終焉の地にして其墳墓あり。東南方黒淵亦黒木御所といふあり。後村上帝皇居の趾と云ふ。

榮山寺

宇智村千嶋、五條より二十三町

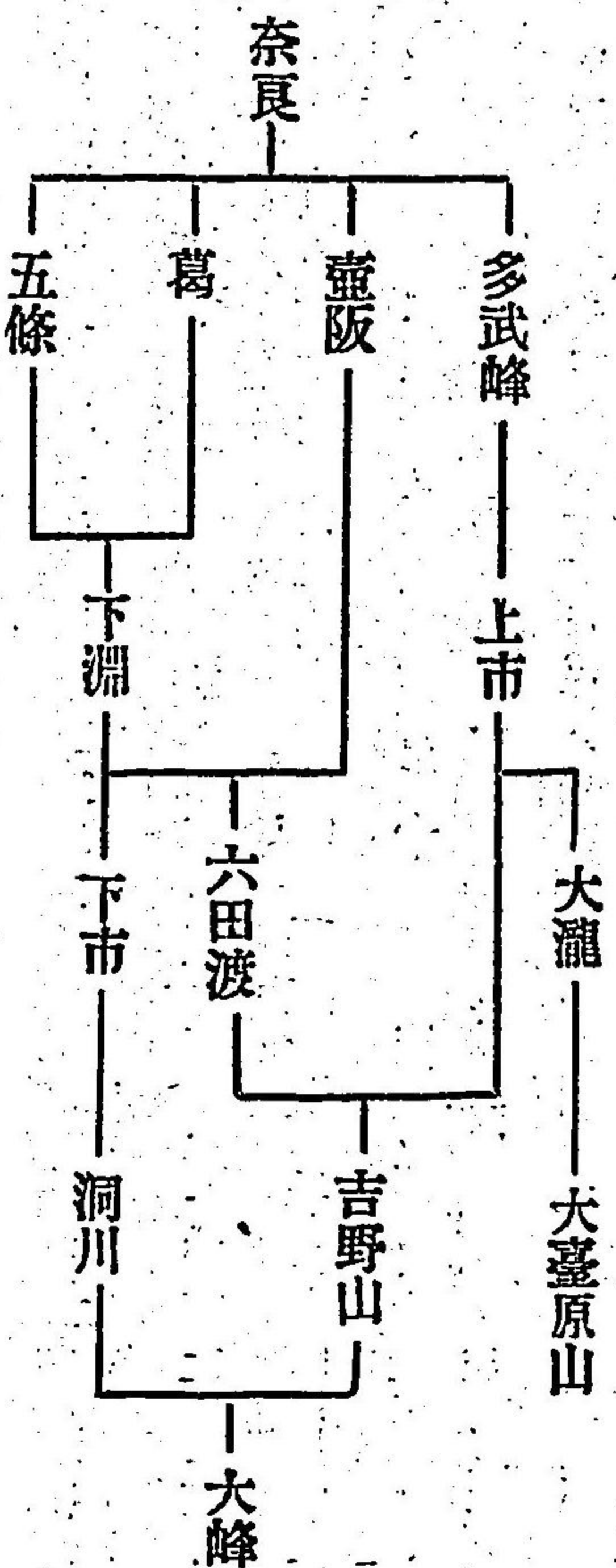
榮山寺は吉野川の北岸にあり役小角の開始せる所にして養老三三年藤原武智麿の建立せる所本堂には本尊薬師如來を安す。八角圓堂は一方一間五尺天平年中武智麿の子右大臣仲麿の創立する所にして天井柱等當時の彩繪の存するものあり。本尊大日如來長一丈三尺あり鐘樓の銅鐘高五尺徑三尺傳小野道風筆といふ、もと山城深草道澄寺にありしを移したるなり。寶物に後小松天皇宸筆の贊ある武智麿畫像あり、又前面吉野川の流水三四町の間音無川とよび巖巖並び立ち水よどみて流れず清澄魚を數ふべし禁獵地なり寺の後方七町許の山上に武智麿の寶蓋あり古碑の殘片は此寺に藏せり五條より榮山寺に至る宇智川を渡る川に寶龜七年の銘ある磨崖碑あり。

吉野地方

吉野一郡至る所山秀で水清く自別寔となせり。神武天皇既に吉野に行幸し給ひ應神天皇亦早く離宮を設けられ給ひき。櫻花の美を以て名を天下に擅にする吉野山は役行者の聞きたる大峰の門口に當り。彌山、釋迦、大日等の諸峰相連りて郡の中央を縱斷し以て熊野に至れり。山の西方は十津川の流域にして十津川村あり、大塔宮に關する遺蹟多く延元の亂、大塔宮、奈良より吉野に逃れ給ひ天の川の殿に至りて戸野兵衛の宅に宿り給ひ又谷瀬なる其舅竹原八郎が家に移らせ給ひぬ。十津川の五百瀬は村上義光が錦旗を奪ひかへしたる處にして腰坂田の名を残し玉置山は片岡八郎の討死したる處にして花折塚あり、小原の善山は瀧瀬川其麓を流れ宮の和歌を刻せる碑あり。 東方は北山川の流域にして北山村と稱す。南朝史の筆を此郷に絶つゝの悲事を見る。南北一統の後後龜山天皇の曾孫尊秀王北山郷の龍川寺に潜みて南朝の恢復を圖り給ひしが賊赤松氏の遣臣におぼたひはら害せられ給ひぬ、墓は川上村神之谷の金剛寺にあり。 大臺原山勢紀二州に跨りて勝地多く吉野、北山の二川皆源を此に發す、吉野川の沿岸亦奇勝多く尤山林に富めり。北山川のどろ八町に至りては天下罕に見るの絶勝たり。

吉野山公園

吉野山公園は吉野連峰の北端なる金峰山の山嘴にあり。役行者大峰山を開きしより神佛威靈の地となり堂塔祠宇樹林の間に構へられて風光自清秀なり。殊に神靈櫻花を愛すと稱して古來多く之を植ゑたれば山脊溪畔至る所花ならざるはなく人をして「これはくさばかり」の感あらしむ。此地又南朝の行在所となり忠臣の遺跡を留むるもの少からず「歌書よりも軍書に悲し」の感亦深からざるを得ず。探古覽勝の客古より推して天下の第一となす所なり。



吉野山に至る葛よりするものは車阪を踰え五條よりするものは宇野峠を越え共に下淵

に出づ

下市は下淵と吉野川を相隔て千石橋を架せり。船屋彌助の鮎鱈、吉野塗等を名産とす。釣瓶船は慶長九年朝廷に献納せしより爾來年々進献するを例とするに至れり。

丹生川上下社南丹生村丹生は下市より二里餘官幣大社にして天武天皇の朝の創立に係り高龍神を祭る古來旱水には此神に祈るを例とせり。此邊多く漆漉の吉野紙を産す。

洞川は吉野より四里小南嶺を越えて至る地十津川の上流にありて大峰參拜の別路に當り龍泉寺あり彌勒を安す。近傍に蠟螂窟あり石灰岩の大洞なり。

六田淀又柳の渡とよぶ、下淵の東方一里にあり壺阪を越ゆるものまた比叡寺の傍を過ぎ少し其東方に出づ。吉野に上るは之よりするを本道とす

上市は六田の東方一里にあり多武峰、松山よりするもの皆こゝに出づ上市の渡を櫻

の渡とよぶ之より吉野に上るは裏道なり。道路東するものは伊勢街道にして高見山を

越えて伊勢の波瀬に出づべく宮瀧より右に分岐するものは川上に入りて北山に出づべ

し(九八頁參看)

吉野宮 吉野山六田より十町

吉野宮は官幣大社にして後醍醐天皇を祭り奉る明治廿五年の創設なり。攝社御影社本殿の右側にあり藤原資朝藤原俊基を祭り、船岡社左側にあり兒島範長兒嶋高德櫻山茲俊を祭る、瀧櫻社其次に相並び土居通増得能通言を祭る。

日の一目千本

六田の七曲より二十餘町の間櫻樹多し長峰の櫻とよぶ、二十八町目に村上義光忠烈碑あり墓は其上方なり、三十町目前後の地は櫻樹最多く一望雲か雪かと疑ふべしこれを日の一目千本とす又日本が花の稱あり。見る者誰か其美觀に驚かさらんや。上市より來る裏通の街道こゝに至つて七曲をなすこれより仰ぎ見る亦最妙なり。

吉野山の民家之より山崎を傳ひたる道路の左右崖によりて構へられ上層は道路と同平面にして店舗を開き中層は家人の住ふ所下層物置に充てたり。陀羅尼助、櫻菓子等を名産とす

金峰山寺

金峰山寺は大峰山上下の伽藍僧房の総號にして役小角の開基する所なり。宗旨は眞言天台の二派にして初め僧坊百ヶ院ありしが中頃兵亂を経て維新に至り廢滅に歸したるもの少からず。一の橋を渡り黒門を過ぎ行くこと一町、銅の鳥居の高く立てるを見る高二丈五尺廻一丈一尺といふこれを過ぐれば二王門あり、金峰山寺の総門とす高さ五丈二尺東西七間南北四間傳へ云ふ康正元年再造天正十四年修補する所と。

藏王堂 金峰山寺の本堂なり高さ十一丈二尺方十八間康正元年再造慶長十九年豊臣秀吉の修覆する所といふ莊嚴華麗の大堂なり。本尊は木彫藏王大權現立像にして三軀あり一は二丈六尺一は二丈四尺一は二丈二尺なり釋迦立像傳世尊 寺本尊 阿難迦葉立像傳世尊 寺脇士等を安す。寶物に千手千眼觀音畫幅、金銅經函三合あり。

本堂の前に四本櫻あり護良親王の最後の御酒宴を催され舞樂を奏せしめし處、南門趾は村上義光の戦死せし處といふ。藏王堂の西方に寶城寺趾あり南朝三帝五十餘年行在所たりし所なり。

吉水神社 藏王堂より三町

吉水院は藏王堂の供僧坊にして吉水院といひしを明治八年改稱し後醍醐天皇楠正成を祭る。客殿に源義經潜居の間、辨慶の思案の間などあり。後醍醐天皇の此地に行幸し給へる時先こゝに入らせ給ひぬ「花にねてよしやよしの」吉水の枕の下に石はしる音の御詠ありき。寶城寺へは後に移らせ給へるなり。寶物に傳後醍醐天皇宸翰の御願文色々威腹巻其他南帝の遺物多し。

山口神社又勝手明神といふ祭神一は忍穗耳命外二神一は木花咲耶姬外二神。源義經の妻靜が法樂の舞を奏したりといふは此處なり。其後なる山を袖振山といふ。其前を西に少し入れば大日寺あり、これより五町ばかり洞川街道を南に行けば東方に村上義隆の墓あり。

如意輪寺

山口神社より七町

山口神社の前より左に下り一溪を渡りて東に上る處に如意輪寺あり、延喜年中日藏上人の開基する所にして南朝の勅願寺なりき。本堂には本尊如意輪觀音坐像(傳安阿彌作)を安す。楠正行が警を截つて佛殿に納め一族百四十三人の姓名を記し鏤もて「かへ

らじとの歌を彫り附けしといふ如意輪塔の趾は庫裏の北方にあり。寺内に楠正行の埋警塚及森田節齋の撰せる警塚碑藤本鉄石招魂碑等あり。寶物に木造厨子入藏王權現の立像を藏す。

後醍醐天皇陵は堂後にあり後龜山皇子世泰親王墓其傍に並べり、近時此近傍多く櫻を植ゑ花時風光最佳なり。

竹林院山口神社の南方三町許にあり宏大なる坊にして庭園は小堀遠州侯の築く所といふ尤奇巧なり。小丘あり頗眺に可なり。

中千本天王橋を渡り猿叢坂の上より東の谷を望む處をいふ、中院谷に佐藤忠信が山僧横川覺範を討ちたる所とて首塚といふあり。其上方花櫓は忠信が義經の爲に防戦せし處といふ布引櫻瀧櫻雲井櫻等を賞して更に上れば世尊寺趾あり一個の梵鐘保延六年の銘あるものを殘せり世に吉野三郎と稱するもの是なり。

吉野水分神社世尊寺趾より二町許上方にありて藏王堂を距ること十八町許始め子守山口神社といひき、今の社殿は慶長九年豊臣秀頼の再建に係れり。正殿天水分神、

右殿正面少彦名神左殿御子神右殿天忍穗耳命左殿正面玉依姬命右殿瓊々杵尊左殿栲幡
千々姬命を祭る。

金降神社水分神社の上方五町許にあり吉野八大神祠の第一にして此山しろしめす
神なり。寶物に金銅經筒あり藤原道長の銘文を記せり。此下に蹴拔塔あり方二間許、
源義經敵に追はれて此塔内に隠れたるを山僧に探し出され塔の屋根を蹴放ちて宮瀧の
方へ逃げ去りしよりいふとぞ之より右四町許ゆけば苦清水あり西行法師の古跡といふ
近傍に西行履跡あり其後方を奥千本といふ。

愛染峰は緑樹鬱茂すと山頂に愛染堂ありしを以て名あり、大峰は之より上るを本道と
す、其奥三町許に女人結界の標石あり、

大 峰

吉野より大峰に至る六里路小天井大天井の二嶺を過ぎ洞辻にて洞川よりの街道と合
す。これより上れば路に鐘掛西視等の行場あり鐘掛は危岩峙立す登りて北方を望めば
山城大和遠近の景色皆眸中に落つべし。西視は數十丈の絶壁にして不動像を彫れり、

大峰に上るものには匍匐うて之を俯瞰せしむ。山上に大峰山本堂あり宏大なる建物に
して藏王權現を本尊とし傍に自作と稱する役行者の像を安す其後方危巖峙ち行者の登
岩、蟻の戸渡、平等石等の行場あり山上の眺望最佳なり。山は四月十日に開きて十月
十日に閉づ。半年の間人の住ふものなきなり。夏時最登拜の人多し。

吉野川上流沿岸

妹脊山龍門村 上市の東方五町にあり妹山は北岸にして大名持社あり、香山は其對
岸にして飯貝に屬す、遠望最よし。妹脊山紀伊にありその説もあれど吉野のを正しとすべく紀伊の兄山は別なるべしといへり

妹山の側を北に行けば龍門に至るべし。山中龍門瀧あり。
宮瀧 國標村に屬し上市の東方五十町にあり。之より吉野山に至る二十四五町、櫻木
神社は五町許の處にあり其前を流るゝを象小川といひ之に架するを假寐橋とも外象の
橋ともいふ名所なり。宮瀧は吉野川巖巖峙立し碧流盛りて其下深潭をなす幅三間許深
さ丈餘、橋其上に懸り柴橋といふ此邊禁獵地にして風光最佳なり。春夏の交瀧飛とて
土人岩上より躍りて潭に投じ旅人を樂ましむることあり亦一奇なり。

國標は此近傍を総稱す大字また國標の名あり、神武天皇の吉野に幸し給へる時早く國標部の始祖を見給ひしことあり、應神天皇の吉野に幸し給ひし時には醴酒を献せしことありこれより後屢朝廷に参りて栗藺年魚の類を奉り朝廷大儀ある時には來朝して歌曲を奏し御覽を献すること長く恒例となり國標奏といへり、後藤原氏攝政の世の末の頃より國標奏は廢絶せしむ其儀式のみは長く残りといふ。

宮瀧より東するものは伊勢街道にして鷲家口を過ぐ吉村寅太郎等天誅黨義士戦歿の處にして其墳墓あり

天誅黨の起るや吉村寅太郎、藤本鐵石、松本謙三郎等中山忠光公を大将とし先五條に入りて代官鈴木源内を斬る十津川の郷土野崎主計、田中主馬造、深瀬繁理等これに應じ最力を盡ししが朝議殿に變じ津和歌山、彦根、郡山等の諸藩兵を出して之を討するや天誅黨は高取城を攻めしも陥るゝことを得ず一たび五條に退き更に天の川邊を守り遂に陣營を燒き拂ひて十津川に入りしも止むことを得ず北山を經て鷲家口に出づるに及び藩兵の爲に討たれて義士の最期を見るに至れり。

大瀧は宮瀧と距る五十町其間五社嶺の險あり大瀧の名は吉野川の流れ急にして激湍をなせる處あるより起れるなるべし、支流蜻蛉瀧あり西河瀧とよぶ高さ十餘間幽深清冷なり。近傍の小平野蜻蛉野とよべり、これ往時吉野宮のありし處ならむかといふ

一既宮瀧を以て其處とす。

丹生川上上社川上村道大下社と祭神を同じうし明治廿九年官幣大社に列せられぬ。

諸窟 北和田に水晶窟あり柏木に菊の窟、聖禪窟、不動窟等の諸窟あり皆石灰岩にして深洞をなす、不動窟の如きは深さ百間或は匍匐うて行くべく或は橋を渡るべく其奥滔々と漲り落つる激流を見る、皆案内者を雇ひて炬火を携へて探り見るを得べし。北和田の南方は尊秀王の墓ある神谷なり 柏木より道路二條に分る 一は大臺原山に至るべく途中入波温泉あり 麓に井光神社あり神武天皇の吉野に入りまし、時井より 一は伯母峯を過ぎて北山に入るべし。出でたる吉野首部の始祖の住へる處なり今縣社に列す。

大臺原山

大臺原山は三國に跨り東西三四里南北四里餘反別四千八百町餘あり山中平坦にして高原をなし奇勝多く中にも三條の大瀑あり最壯絶となす東の瀧凡高四百尺中の瀧八百尺西の瀧六百尺 近時大臺本殿の設けあり年々探勝の客を加ふるに至れり。

どろ八町

どろ八町は北山川の紀伊との境を流るゝ處にあり八町の間左右巉巖壁立し緑樹其上に繁茂し碧水淀んで流れず曲曲光景改る、山水の美名狀すべからざるものあり。下流十津

丹生川上上社、大臺原山、どろ八町

川と合して熊野川となり紀伊の新宮に至りて海に入る。

吉野山林

吉野の山林其名天下に聞え杉檜の良材は本縣主要の物産に屬す其起原は三輪春日の兩山に天然生育せし神代杉を移植せしにありて尙四百年以來の事なり。しかも其發達の速なる慶長年間既に京都桂離宮御造營の用材となり寛永年間杉種二石を隱岐國に分與したることありといふ。吉野附近の山林に入りて其林相を望み伐採、運搬、筏の作業等を見る利益と趣味と兩ながら多かるべし。

大和巡終

産業

●農業 大和の一國大部分は山地に屬すといへども大和川の流域に一大沖積層を開き穀神廣瀨の社北方に鎮座し龍田、丹生川上の威靈に五風十雨其宜しきを得、由來米質の良好を以て自任じ瑞穂國の一州たるに愧ぢず其耕作地三万餘町收穫凡六七十万石生駒郡其首位を占め品質亦最良好にして特に生駒谷の産は生駒米の名を以て世に鳴れり。●麥は作る所二万町穫る所二十万石磯城郡最多くして凡全額の五分一を有す。●其他豆類、粟、黍、稗等の産あり。●甘藷は年々産額を加へ三百六十万貫以上に上り生駒其四分一あり矢田薯の名は人の知る所、之に次ぐを吉野北葛城となす。●馬鈴薯五十五萬貫、青芋二百八萬貫、漸次産額を加へ牛蒡百二十萬貫、蒟蒻玉四十萬貫、亦多量を産す大根三百八十万貫生駒最多く織田氏の世「順慶の時世得られししるしには太く見事な筒井大根」の狂詠あり今も其近傍長安寺大根の名あり。●其他西瓜百二十萬貫は磯城山邊最多く南瓜、薑、山葵等の産亦少からず。●果實類は田道間守が始めて此國に輸入したる柑橘の類近時漸く栽培の額を加へたるも猶平均百万貫に及ばず而して吉野其四割以上を占め山邊磯城之に亞ぐ柿は古來有名に

して其名の御所の産より起れる御所柿を最上品とす幕府の世郡山藩主献上品の中に大和柿の名あるもの即是なり。今産する所各種を通して三十六万貫以上に及び最生駒宇陀を多しとす。桃三十五万貫阿田の桃園を有する宇智郡其半を占め梅實十一万貫月瀬を有する添上郡其半以上を占め、梨子十一万貫生駒磯城各四割を占む。其他果實の栽培は一般に漸く盛況に向はんとするの狀態あり。

業種は燈油の用を減せしより收穫幾分を減する傾きあり「菜の花の中に城あり郡山」の昔を見る能はず、實綿は河内と共に主要の産地なりしも外國綿の輸入盛なるより之を十年前に比すれば二十分に減せり、「木綿取生駒の山は雨の雲」の詩味亦漸くに薄からんとす。其他葉烟草、葉藍、大麻、蘭、楮、生薬等の産あり。

漆汁は古來此國の名産にして吉野は今猶多く之を産す茶は産額三十万貫煎茶三分の二に近く他は多く番茶に屬し添上山邊郡最盛にして三分の一以上を占め。養蠶の業は近時漸く盛にして繭の産額凡一万餘石に及べり。皆山間部の産となす。水産物に至りては其養殖に係るもの鯉一万六千貫八千貫あり、金魚は文龜年

間和蘭人の舶載したるものなれども實永中生駒郡郡山人佐藤三左衛門養殖の法に巧なりしより爾後此地の特産となり今養殖場の面積四万坪世界に類を見ざる一種の美觀なり、收穫の數量百万尾四萬以上に及び其名品に至ては一尾五六圓に値するものあり。

其漁獲に係るもの鮎は吉野川の名産にして全國五千貫八千貫中其七割以上に及び其他鰻、鯉、鮠等を合せて五千貫四千あり、中にも鮎は製して粕漬幕府の世獻、酢漬、煎餅、釣瓶鮎九一頁等となすも産額未だ多しと云ふべからず。

林業 大和は四境山嶽に圍まれ全國三分二を占むる吉野一郡の如き僅に吉野川の沿岸に小平野を有するのみ、山林業の此國に盛なる固より其所なりといふべし。官林は四千五百町、其最大なるを高取とし其次を室生とし菩提山とす、民林十三万町吉野其六割半を占む。中にも春日、三輪、畝傍、耳梨の如き神山に屬するもの南淵山高市郡の如き水源地に屬するもの古來伐木を禁じ長く森殿の美觀を保てるあり、今日吉野十郷至る所林業の盛大を極め吉野山林の名天下に鳴るに至りしもの實に今より四百年前春日三輪兩山の神代杉を移植したるに起るといふ一〇〇頁今民林の産物を數ふれば檜、杉、

松の類二百三十万本、百九拾萬圓其中杉百五十万本百四拾萬圓に上る而して其五分四は吉野のものとなす。竹五万束二萬添上最多く其副産物は椎茸二千貫密高吉野其大部を占め松茸一万五千貫密高五に近く吉野其半を出して宇智生駒矢田松茸最上品にして其名著る之に次ぎ栗は一千貫密高宇智吉野最多し。

鐵物は數年前に比すれば稍産額を減す銅二十万斤其他皆少量なり。

工業 吳織漢織くれはせりあやせりの渡來し來りて固有の製織に一層の精巧を加へたる大和も絹織物は久しく産出を絶ちたれども近時漸く少量を産し絹交織物亦好況を呈せんとす今産する所一万反に近く高市其半以上を占め吉野奈良市之に次ぐ綿織物に至つては大和木綿大和緋せりの名早く世に聞えぬ。其沿革を尋ねるに綿種渡來の後大和を始め諸國に之を栽培し徳川の初期早く木綿を製出して大和木綿の稱あり而も猶純白若くは縞物のみなりしが寶曆年間に至り御所の淺田五右衛門越後布の紺緋こんせりを見て之を木綿に應用したるもの實に大和緋の起原なりとす。一表の傍には機織る處女小歌を諷ひ、裏には絲繰る老婆詠歌をあぐる爪の長さ仕入しはいの商人あれば氣の短き織屋の親仁おやぢありて恰もいさかひの如く

算盤の音機音に混していと静ならざるは此邊一帶の盛況なり。總數七百万反價格參百萬圓以上に上り産地を以てすれば北葛城其首位を占めて三分一あり之に次ぐを高市南葛城とす。種類を以てすれば白木綿總價の四割五分を占め緋二割以上を占む。其産額全府縣に就いて三四位を下らず。麻織物は十三万反參拾萬圓奈良市其大部を占め反數を以てすれば蚊帳地八割以上に居り、價格を以てすれば麻布五分二に居り添上郡の東部産出最多く石打布いしうちものの名世に聞えたり、晒布さらしは奈良古來の名産に屬し徳川家康既に具足師岩井某をして丈尺の不同を改めしめたることあり徳川の中世には奈良に晒屋七軒近郷に間屋二十二軒布中買六七百人ありき其盛大なりしを知るべし。

綿絲紡績は郡山高田の二所にあり百万貫内外を産するも原料は多く之を外國に仰げり。蠶絲は漸次盛況に進むを見るも總額猶七八千貫に滿らず磯城其四分一を占め宇陀北葛城添上の三郡之に次ぐ。

製紙は戸數三百軒職工千五百人産額九萬圓に近く九割以上は吉野に屬す其國樫の邊に産するものは宇陀紙國樫紙其他の諸紙あり丹生川にまがはの沿岸に産するものは漆漉うるしにして古

茶の名産に屬し吉野紙の名あり絹本襷装の中裏に打つ翠簾紙の如き亦此地の特産に係るといふ。油類は総額七千石に近く其價格貳拾參萬圓生駒其四割に居り磯城之に次ぐ。漆器は日本武尊の宇陀にて漆樹を發見し器物に塗らしめ給へるに起ると傳ふ、七〇頁兎に角に宇陀に漆部郷あり漆器の此國に緣故深きを知るべく平城朝優秀の漆器を見る多きは此國の製出に係れるを想ふべし。後其沿革を詳にせず後醍醐天皇の吉野に南巡し給ふや工人をして金輪寺の茶器を製せしめ給ひぬ、其後奈良の茶匠珠光採法に巧にしと能く茶器を製し其後中次亦奈良特種の産物となれり茶器の外に於ては吉野根來五百年前のもあり古の吉野塗亦一種の妙味を見る膳櫛の如きは粗製なれども今猶多く下市に産せり。奈良には小字に木地屋垣内の名を存せるは漆器の木地を引きし處ならんがとの傳説あり元祿の頃塗桶を出し近時奈良漆器大に産額を増せり然れども縣下総額僅に八萬五千圓奈良其五分三吉野五分二を占むるに過ぎず。筆は少量なれども古來産出するが如し今総額四萬圓其大部は奈良にあり。紙墨の製は推古の朝高麗の僧曇徴之を傳ふといふ中世興福寺の僧二諦坊油煙を以て墨を製造せし

より此地多く工人を生ずるに至れり中にも古梅園松井元泰製墨の方を研究して其名最著れぬ今産出する所総額拾四萬圓亦奈良の特産に屬せり。

陶器は生駒郡に赤膚山の一窯あるのみ正保年間京師の名工野々村仁清此地に來り土人に教へて器物を造らしめたるもの其始めなりといふ後其窯廢せしを郡山の城主再興して今に及べども精巧のものを出すに至らず近頃郡山に木白といふも父子二世技に巧なりき今産出する所六百圓内外あるのみ。

奈良團扇はもと春日の禰宜の内職に製せしものなるが今は一の名産となり透彫など精巧のものを出し「元直にもならぬもの」とて灘々に手を團扇賣持々あきなひ」といふが如き、状態は昔の事となす。奈良扇また一種の名産にして、今産する所共に十萬本壹萬五千圓、茶筌は高山宗砌其製法を一族に傳へしより宗砌は賴宗に傳ふ賴宗の子賴春の作る所精の作る所天正年間豊公北野大茶湯の時百租を獻しぬ爾後禁裏仙洞幕府大藩等へ展獻納の事ありき生駒郡高山の特産に屬し他國遂に之に勝るものを製する能はず。今産額十萬本六千圓漸次需用を増進せんとす、其他箆、竹箸、等の産あり。瓦は八萬圓を出して磯城其三分一弱

を占め、種類は参萬五千圓南葛城四割以上を占む。
刻烟草は拾參萬圓磯城其首に在り。

索麩は二十五萬貫拾貳萬圓磯城其大部に居り三輪索麩の名遠近に喧傳す。凍豆腐は二十萬貫參拾萬圓山邊其半に居り。葛粉二萬斤貳千圓吉野葛粉の名を以て世に聞ゆ今多く宇陀の産なり。醬油は一万四千石、拾七萬圓高市郡首位に居り曲川の名世に聞ゆ。酒は四萬餘石を産して價格百參拾萬圓に上る其中釀酒は古來奈良の名産にして永祿の頃既に酒屋菊屋の名の記録に存するを見る。其他の特産奈良漬は其普通名詞となれるを見るにも古く産物に大和瓜の名あるを見るにも其由來の久しきを想ふべし。刀劍は奈良に千手院包永等の名工ありしが遂に一の物産となり南北朝の頃既に奈良刀の名あり幕府の當時晒布、墨、團扇、酒、甲冑等と共に皆御用に供せられたるものなり。甲冑は岩井春田の二家善く製せしと稱せられ其他武器に關する工人は頗多かりしも維新後大方は跡を絶つに至れり。奈良人形は岡田松壽最長く業を傳ふ近時名工に森川杜園を出し。此他産物一々枚擧するに暇あらず。

宮 趾 一 覽

- 春日 奈良市 春日神社 或云春日川
- 平城 宮(仁徳) 生駒郡都跡村佐紀大宮ノ地
- 石上 穴穂宮(安康) 山邊郡或云、丹波市、田村貴船
- 石上 廣高宮(仁賢) 田ノ地
- 黒田 盧戸宮(孝靈) 宇都郡、都村或云宮古、黒田間
- 纏向 珠城宮(垂仁) 同郡、纏向、或云六師トヨウ堂、
- 纏向 日向宮(景行) 同郡、纏向或云太田、都古谷、
- 纏向 日向宮(敏達) 同郡、纏向村太田、或云戒重春
- 磯城 瑞籬宮(崇神) 同郡、三輪、金屋志貴神社南方
- 磯城 島金刺宮(欽明) 同郡三輪(金屋、山崎ノシキ島)
- 泊瀬 朝倉宮(雄略) 同郡、朝倉村黒崎ノ東北字天ノ
- 泊瀬 列城宮(武烈) 同郡、初瀬町或云、出雲十二社
- 倉 梯 宮(崇峻) 同郡、多武峰村、倉橋、御陵ノ
- 磐余 稚櫻宮(履中) 同郡、櫻井町、谷、稚櫻神社ノ
- 磐余 玉穗宮(繼體) 同郡、未詳
- 磐余 池邊雙槻宮(用明) 同郡安倍村阿倍池内ト云フ
- 磐余 瓊栗宮(清寧) 同郡香久山村池内字御厨子或云
- 遠飛鳥 宮(允恭) 高市郡、飛鳥村飛鳥、字大垣内
- 近飛鳥 八鈎宮(顯宗) 同郡飛鳥村八鈎顯宗神社ノ地ト
- 小墾 田 宮(推古) 同郡、飛鳥村、豐浦甘徳神社ノ
- 飛鳥 岡本宮(舒明) 高市郡高市村岡本寺ノ地或
- 飛鳥 板蓋宮(皇極) 同郡或云高市村川原村板蓋神
- 後飛鳥 岡本宮(齊明) 飛鳥岡本宮ト同所ナラン
- 飛鳥 淨見原宮(天武) 同郡、高市村上居、字都ノ地或
- 藤原 宮(持統) 同郡四公村高殿、字宮所、大宮
- 藤原 宮(文武) 同郡、白樺村、畝傍、樞原神宮
- 藤原 宮(神武) 同郡、白樺見瀬、マハリナサノ
- 藤原 宮(懿德) 同郡、白樺村、見瀬「サカキバ
- 藤原 宮(孝元) 同郡、白樺村、大輕、
- 檜原 宮(應神) 同郡白樺村、大輕、
- 檜原 宮(宣化) 同郡坂合村檜原
- 勾 金 橋 宮(安閑) 同郡金橋村曲川大宮坪ノ地或云
- 片瀬 浮穴宮(安寧) 北葛城郡、浮穴村、三倉堂大徳ノ
- 葛城 上池心宮(孝昭) 南葛城郡、上池心村池内、蓬原又同
- 室秋津 島 宮(孝安) 同郡秋津村室宮山ノ地ト云フ
- 葛城 高丘宮(綏靖) 同郡吐田郷村森脇字神宮地

國寶一覽

既定ノ國寶千二百點ニ近ク奈良縣治其四分一ヲ占ム
殊ニ彫刻ニ至テハ其三分二以上ヲ占メタリ

彫刻

- 銅造
 - 東大寺大佛
 - 誕生釋迦
 - 興福寺東金堂藥師三尊
 - 新藥師寺藥師
 - 藥師寺藥師三尊
 - 藥師寺藥師三尊
 - 聖觀音
 - 法隆寺釋迦三尊
 - 藥師三尊
 - 彌陀三尊
 - 全(彌夫人念持佛)
 - 觀音
 - 釋迦文殊
 - 絳藥師胎內佛
 - 誕生釋迦
- 全 觀音(五)
- 全 鑄製三尊(二)
- 長谷寺銅鑿法華說相圖
- 岡寺如意輪觀音
- 乾漆
 - 東大寺三月堂本尊
 - 全 四天王
 - 全 二力士
 - 全 梵天帝釋
 - 興福寺北圓堂四天王
 - 全 十大弟子
 - 全 八部衆
 - 福智院地藏(夾杉漆)
 - 法華寺維摩
 - 唐招提寺本尊
 - 全 千手觀音(夾杉漆)
 - 全 藥師(木心)
- 法隆寺觀音
- 全 行信僧都
- 全 西圓堂藥師
- 全 彌陀三尊(木心)
- 全 彌勒(同)
- 全 觀音勢至
- 聖林寺十一面觀音
- 聖觀音
- 觀音
- 東大寺日光月光
- 全 執金剛神
- 全 辨財天吉祥天
- 全 戒壇院四天王
- 新藥師寺十二神將(土)
- 法隆寺食堂梵天帝釋
- 全 四天王
- 全 塔內文殊維摩侍者(七)
- 全 男裝女裝侍者(二)
- 全 彌勒
- 全 涅槃釋迦侍者(三)
- 全 夢殿道隆
- 岡寺如意輪觀音
- 石造
 - 東大寺獅子(二)
 - 碑
 - 靈山寺彌陀三尊
 - 岡寺天人浮刻
 - 龍阪寺鳳凰浮刻
 - 紙製
 - 唐招提寺鑿真
 - 木造
 - 東大寺瓦辨
 - 全 俊乘
 - 全 南大門二王
 - 全 彌勒
- 全 僧形八幡
- 全 多門天
- 全 千手觀音
- 全 獅子頭
- 全 念佛堂地蔵
- 興福寺彌勒
- 全 世親無著
- 全 法相六祖
- 全 北圓堂釋迦
- 全 金堂 同
- 全 同
- 全 同
- 全 二力士
- 全 東金堂維摩
- 全 文殊
- 興福寺梵天帝釋
- 全 十二神將

- 全 板彫全(十二)
- 全 龍燈鬼天燈鬼
- 全 南圓堂四天王
- 全 金堂 同
- 全 日光月光
- 全 地蔵
- 全 千手觀音
- 全 聖觀音
- 全 南圓堂不空羼索
- 全 彌勒(厨子入)
- 全 帝釋天
- 全 多聞天
- 全 阿彌陀
- 全 佛頭佛首
- 新藥師寺千手觀音
- 全 藥師
- 元興寺十一面觀音
- 全 藥師
- 法華寺十一面
- 全 佛頭
- 全 二天頭
- 海龍王寺文殊
- 全 十一面
- 不遇寺聖觀音
- 秋篠寺十一面觀音
- 全 梵天
- 全 救脫
- 全 帝釋天
- 全 十一面觀音
- 全 大元帥明王
- 西大寺行基
- 全 釋迦
- 全 四佛
- 全 文殊
- 唐招提寺大日
- 全 釋迦(厨子入)
- 全 十一面(二)
- 全 地蔵
- 全 彌勒
- 全 藥師
- 全 寶生
- 全 獅子頭
- 全 養寶王
- 全 梵天帝釋
- 全 四天
- 全 佛頭
- 全 如來形
- 全 天部形
- 藥師寺十一面觀音(二)
- 全 彌勒
- 全 比丘八幡
- 全 神功皇后
- 全 仲津姬
- 全 二天
- 大安寺千手觀音
- 全 不空羼索觀音
- 全 楊柳觀音
- 全 四天王
- 全 十一面觀音
- 靈山寺十一面觀音
- 全 塔中地蔵
- 法隆寺夢殿觀音
- 全 金堂四天王
- 全 上ノ堂同
- 全 九面觀音
- 全 觀音
- 全 彌勒
- 全 藥師三尊
- 全 釋迦三尊
- 全 藥師
- 全 金堂彌勒
- 全 吉祥天多聞天
- 全 梵天帝釋
- 全 夢殿聖觀音
- 全 聖觀院太子脇士(五)
- 全 如意輪觀音
- 全 地蔵
- 全 彌陀
- 全 文殊尊賢
- 全 日光月光
- 全 觀音勢至
- 全 地蔵
- 全 善女龍王
- 全 新藥師三尊
- 全 四天王
- 中宮寺如意輪觀音
- 法隆寺藥師
- 全 十一面觀音
- 全 虛空藏
- 全 聖觀音
- 全 吉祥天
- 白毫寺閻魔
- 弘仁寺明皇菩薩
- 室生寺如意輪觀音
- 全 彌勒
- 全 釋迦
- 全 藥師
- 全 文殊
- 全 十一面觀音

- 文殊院文殊師士
- 開寺義淵
- 極樂寺日蓮
- 弘福寺持國天多聞天
- 吉野水分社轉幡千手姫
- 全 玉依姫
- 如意輪寺藏玉權現 (厨子入)
- 春日社舞樂面(五)
- 手向山社同(十五)
- 東大寺伎樂面(一九)
- 全 舞樂面(三)
- 法隆寺同(五)
- 繪 畫
- 東大寺書卷大師
- 全 俱舍曼荼羅
- 全 華嚴五十五所繪卷
- 興福寺二天
- 全 慈恩大師
- 新藥師寺涅槃
- 法華寺關陀三尊
- 海龍王寺毘沙門
- 極樂寺淨土曼荼羅
- 西大寺十二天
- 全 文殊
- 唐招提寺東征繪卷
- 全 大威德明王
- 藥師寺吉祥天
- 全 慈恩大師
- 法隆寺蓮花屏風
- 全 曼荼羅
- 全 孔雀明王
- 全 五尊
- 全 毘沙門天
- 朝護孫子寺信貴山緣起
- 寶山寺彌勒
- 極樂寺太子繪卷(八)
- 千壽院紫鏡金銀泥阿界
- 曼荼羅
- 當麻寺淨土曼荼羅
- 全 法然上人行狀繪卷 (四八)
- 刺 繡
- 中宮寺天壽國曼荼羅
- 筆 蹟
- 東大寺賢劫經
- 全 大毗婆沙論
- 西大寺金光明最勝王經 (一〇)
- 全 大毗婆沙經(七)
- 藥師寺增智阿含經
- 法隆寺扇面古寫經
- 吉水社後醍醐帝御願文
- 勅 額
- 東大寺西大門
- 般若寺醍醐帝宸翰
- 海龍王寺聖武帝宸翰
- 唐招提寺
- 書 籍
- 東大寺(東大寺要錄(七))
- 全 續要錄(九)
- 石 彫
- 藥師寺佛足石
- 全 佛足石碑
- 器具類
- 東大寺銅製八角燈籠
- 興福寺南圓堂銅燈臺扉
- 全 華原磬
- 全 銅鐘
- 榮山寺銅鐘
- 金隆社金銅經筒
- 金隆山寺金銅經函(三)
- 淡山社銅鐘盤
- 法隆寺銅壺
- 東大寺船形後背
- 不退寺金銅舍利塔
- 西大寺同(三)
- 全 瓶形舍利塔(五)
- 東大寺五瓣子如意
- 法隆寺玉虫厨子
- 全 福夫人念持佛厨子
- 全 天蓋(三)
- 東大寺黑漆螺鈿卓
- 當麻寺
- 俱利伽羅龍時繪卷
- 春日社龍大鼓
- 全 赤銅造太刀
- 全 耳木莖短刀
- 全 菊作短刀
- 全 龍手
- 朝護孫子寺武經類
- 石上社色々威腹卷
- 吉水社同
- 手向山社四枚居木
- 全 黑漆螺鈿唐鞍
- 建 築
- 極樂院五重塔
- 海龍王寺同
- 發掘品
- 石上社勾玉類

明治三十六年三月廿五日印刷
 全 年四月一日發行

發行所

奈良市上三條十三番地

奈良縣協贊會

著作人

奈良縣生駒郡山田町大字豆腐二十二番地

水木要太郎

印刷者

京都市上京區小川通二條上ル榎屋町二十七番戶

柿原太朗吉

印刷所

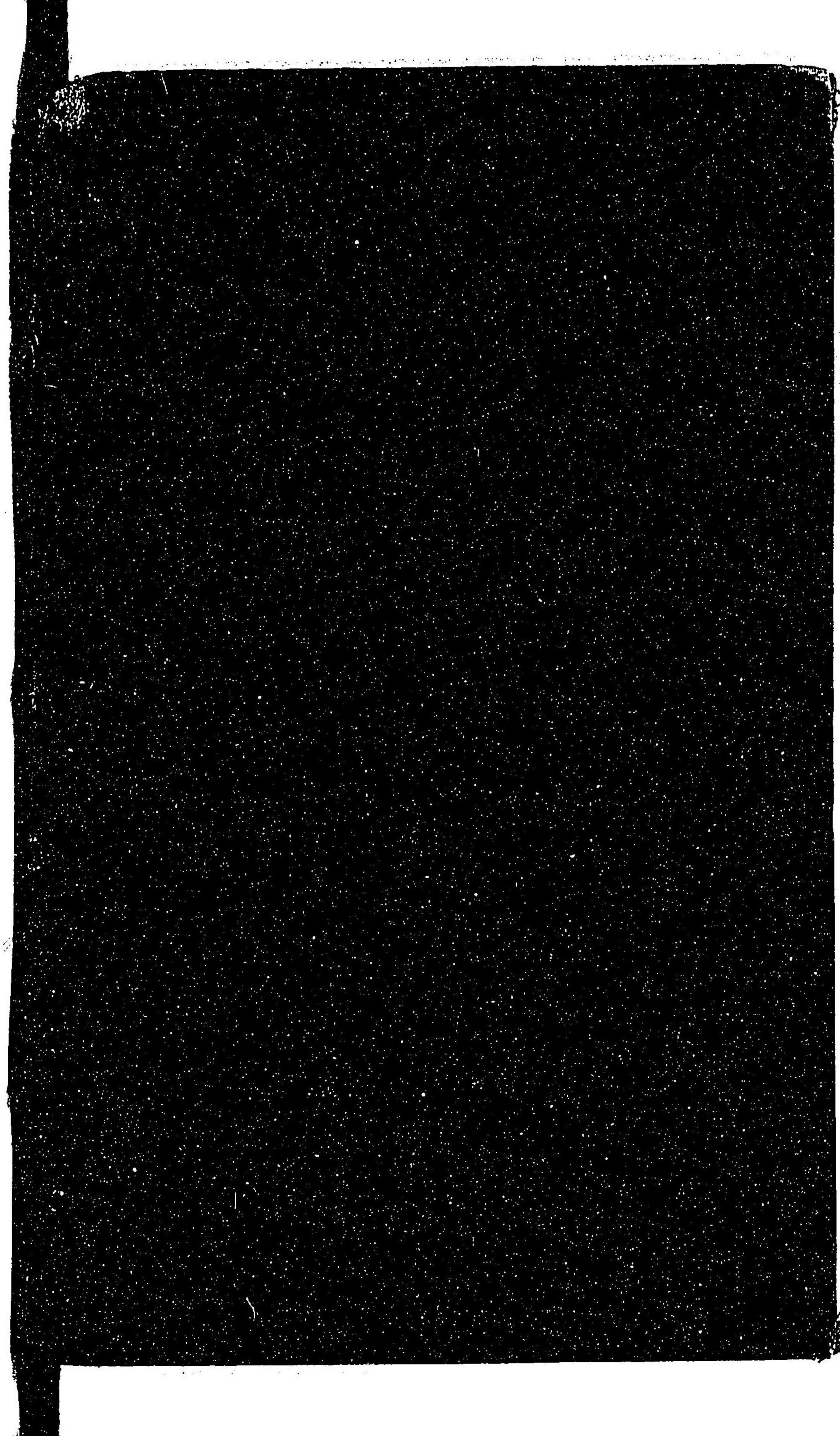
京都市上京區三條通東洞院東入曼華院前之町十七番戶

合資商報會社

96
20

174

96
209





025704-000-6

96-209

大和巡

水木要太郎 / 著

M36

ADC-3238



